「動物」は「どうぶつ」にまさる

ふつう、一年生には、動物ということばを、「どうぶつ」というひらがなで教えます。ところが、わたしは、一年生に、「動物」という漢字で教えます。すると、子どもたちは、「先生『動物』って、『動く物』って読めるね」

というのです。わたしは、

「ああ、そうだよ。きみたち、チューリップやたんぽぽやさくらの木が生き物だってこと、よく知っているね。でも、草や木は、ひとところに立ったままで、動くことができないだろ。生き物には、動ける物と、動けない物とがあるので、動ける物を、『動く物』と書いて、『動物』ということにしたんだよ」

と、話してやりました。すると、子どもたちは、驚きの目を見張って聞いていましたが、

「先生、じゃあ、とんぼもちょうちょも動物なの！」

と尋ねました。

「ああ、そうだよ」

するとほかの子も尋ねました。

「先生、金魚も？」と。

水の中に住むものは、「さかな」ではあっても、「動物」ではないと、ついいままではそう思っていたにちがいないからです。

「ああ、そうだよ。水の中を動きまわるからね」

「先生、ありは動物園にいないけど、やっぱりあれも動物だね」

「先生、人間もやっぱり動物じゃあないの」

とうとう、こんな質問まで出てきました。

動物ということばは、ふつう、三、四年生になっても、その正しい概念を理解できないものです。しかし、漢字で学習するわたしの一年生は、りっぱに正しい概念を理解することができたのです。